

小型の樹木破砕機開発

【岡山】農業機械メーカーの三陽機器（岡山県庄町、寺前公平社長）は小型の樹木破砕機「グリーンフレイカGF100」の写真を開発、十二月から販売する。改正廃棄物処理法の施行で焼却炉の設置基準が厳しくなり、せんだした枝や廃材の処分用に破砕機の需要が高まっていることに対応。主に果樹園や造園業者向けに販売する。



全長百七十センチ、幅九十センチ、高さ百三十五センチで重量は三百十

五キログラム。十三・五馬力の空冷ガソリンエンジンを搭載する。価格は九十八万円。ハンドルの間の投入口から枝などの廃棄物を入れ、二枚の回転式の刃でおがくず状に細かく砕く。破砕物は空気の方で排出口からはき出す。直径十センチまでの木材を破砕できる。自走式でクラッチから手を離すと停止するほか、非常停止ボタンでエンジンを止められるようにした。